

地域資源を生かした
ここならではの
教育を开花させたい

平成27年4月に開校する「鹿児島県立楠隼^{なんしゅん}中学校・楠隼高等学校」の校長に就任する山崎巧さん。これまで鹿児島県で高校教員として勤め、薩摩川内市の「川内まごころ文学館」の立ち上げにも関わるなど、教育者としてだけでなく経験も経てきた人物だ。日本初となるスタイルを持つ新設校での大役に、信念を持って臨む。仕事面ではストイックだが、大隅や肝付町の豊かな自然と食材の素晴らしさを熱く語る親しみやすい人柄が魅力。今回は自身にとっても新たなステージとなる学校で話を伺った。

鹿児島県立楠隼中学校・楠隼高等学校

校長 山崎 巧さん

Takumi Yamasaki

教育者を志した きっかけは？

大学院時代は中国文学、つまり漢文学が研究対象でした。26歳くらいまで研究を続けていたのですが、当時は学費や生活費などを捻出するため、予備校講師や私学の非常勤講師などをして働いていました。その経験が、教える面白さを知ったきっかけでした。

教師は学んだことを現場で生かす「実学」の世界。研究論文とは違う充実感に魅かれました。とくに予備校講師は成績を伸ばすのが仕事。実績がものを言います。評価が上がれば対価も増える。当時の私は自身の研究や生活のためにも、価値の高い講義をしなくてははいけませんでした。教員になってからの教材研究などは、この時にだいたい鍛えられた賜物



「今年の夏は童心に戻って、カプトムシやクワガタムシなどをつかまえました」と笑う山崎校長。

だと思えます(笑)。

26歳で「教師になる」という目標はできたものの、実は教員免許は取得していませんでした。そこで、最低限の学費で単位が取れるプランを考え、東京の大学に通信生として入学したり、聴講生になったりして、1年半ほどで必要な単位を取得。なんとか免許を取り、鹿児島県の高校教員として働き始めました。教員になってからは良い先輩に恵まれ、表現指導をテーマにした公私・小中高の隔てのない研究グループにも所属。勉強はもちろん、大切な仲間もできました。このつながりは現在の仕事にも、協力や助言といった形で生かされています。

楠隼中高の特徴を 教えてください。

「楠隼中学校・楠隼高等学校」は、全国初の公立全寮制男子校として注目を集めています。少子化が進む中、このようなスタイルの新設校を創るのは大きなチャレンジです。しかし肝付や大隅には、「地域の素材」が豊富にあります。

例えば農業・漁業といった営みやそこから得られる山海の幸、内之浦宇宙観測所、自然や歴史、文化。当校ではこうした地域資源のすべてを教

育のために使いたいと考え、カリキュラムにも盛り込みました。進学を目指すだけでなく、人間性や創造的知性を育む場にしたいのです。

特徴的なのは「ことば探究」や「宇宙学」など、独自の教科を設けていること。なかでも「ことば探究」はあらゆる学習の前提になります。スピーチやディスカッション、体験活動などを通じて自分の考えを言葉にして伝える力や文章で表現する力、コミュニケーションやプレゼンテーションの力を育成します。「宇宙学」では宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携し、研究者・技術者による定期的な講義を行います。新しい教育活動なので、テキストをゼロから作るなどの苦労はあるのですが、大きな楽しみでもあります。

これから期待 していることは？

私は幼少期に旧高山町で暮らし、15歳まで大隅で育ちました。自然が身近で、のびのびとした環境で過ごす時間の豊かさを知っています。今回新設校の校長として関わることになり、地域の魅力を再認識しました。決して何もかもがある場所ではありませんが、だからこそこそできる教育、学びや気づきがあるはず。ありがた

いことに、地元の人々からも地域支援の形でさまざまな協力をいただいています。生徒たちは、そうした交流活動からも得難い経験をしていくでしょう。親元を離れた寮での共同生活もそのひとつです。生徒が自治的な運営をすることにも期待しています。さらに、薩摩藩の伝統的な郷中教育の考えも採用しています。武士の子どもたちは先輩・後輩がともに勉学や武術にいそしみ、心身を鍛錬しました。その代表的な武術である自顕流を学んだ小中学生の作文を読みました。素晴らしい内容でした。自らを顕すと書く自顕流は、自身の気力の充実を表現するもの。それが言葉にも表れています。

当校では薬丸野太刀自顕流体験をはじめ、薩摩琵琶や南洲西郷翁遺訓など、鹿児島島の文化や心を学ぶ機会も設けています。

ここで生まれた仲間の絆は、将来にきつとつながっていきます。多彩な経験を通じて、豊かな人間性と広い視野を養ってもらえたらうれしいことです。

開校してからも真価を問われ続けるチャレンジですが、私自身も新たなステージへの期待感でいっぱいです。でも、あまり気負い過ぎず、前をしっかりと見つめて力を注いでいきたいと思えます。